



正論でも、心は必ずしも動かない

札幌国際大学 准教授 安井政樹

自分がやったことがない習い事、例えば、英会話教室や水泳教室、登山サークルなどに通ってごらんと言われたら、ちょっとドキドキしませんか？これは、大人も子どもも同じです。

冒頭の「やってみないと分からないじゃん」「何事もチャレンジだよ」と言うでこりん。まったくの正論で、つい大人が言いたくなる言葉を言いますが、正論を振りかざしても、「僕にはできないって言ってるでしょ！」と、**ぼこすけは心を閉ざしてしまいます**。

「あきらめるのはまだ早い」「だれだって最初は上手にできない」「練習していくと上手になるよ」と正論が続きます。この映像をみて、「はっ」とした方はいませんか？私は、「ついそういうことを言っていたことがあるなあ」と、自分を振り返り反省してしまいました。

実は、でこぼこポンには、このような「鏡」としての効果があります。困っている子とそこに関係する大人が、**自分たちの日常を鏡で見るかのように視聴することで、自分自身を見つめることができる**のです。その時の互いの思いをぜひ共有してみてください。

歩くんは、スモールステップの大切さを伝えています。

(ダンスの場合の例)

ステップ1 お手本を見る > **ステップ2 準備体操** > **ステップ3 最初のポーズ**

スモールステップは、いくら周りがスモールだと思っていなくてもだめです。それくらいできて当たり前という感覚ではなく、**その子にとっては大きな一歩**とその子の目線に立って、認めていただきたいわけです。「おめでとう！」とトロフィーを渡すシーンがそのことを伝えています。トロフィーは、「その子にとってのうれしいこと(ごほうび)」でOKです。ご家庭や学校では、スタンプ、シールなどを蓄積するなど、頑張ったことを見える化する工夫もできそうです。

歩くんは現実にはいません。ですから、「歩くんがいたら、なんていうかな？」と自分の中に歩くんという存在を作れるようになることが大切になってきます。これは、その子だけではなく、ついつい焦ってしまう大人の中にも必要なのかもしれません

3歩進んで2歩下がるくらいの心のゆとりで、歩くんとともに一歩一歩進みましょう。